

平成 29 年度 第 4 回郡上市地域公共交通会議(会議要録)

○会議名称 平成 29 年度第 4 回郡上市地域公共交通会議

○開催日時 平成 29 年 12 月 12 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分

○開催場所 郡上市役所 4 階 大会議室

○協議事項

議題第 1 号 (株)白鳥交通 白鳥荘川線の廃止及び白鳥ひるがの線の増便について

議題第 2 号 郡上市地域公共交通網形成計画の取り組み事業 (案) について

○出席委員 青木副市長 (会長代理)、尾藤安正、平岩憲政、武藤尚樹、大西春子、畑中知昭、出井建雄、馬淵公子、古田米弘、西脇 洋恵、佐野みゆき、廣中健太、下里武司、宮内菊次、伊豆原浩二、池田喜八郎、古川昭文
佐藤浩一 (代理)、宇佐美有紗 (代理)、柴田裕子 (代理)、一柳秀樹 (代理) 計 21 名

○欠席委員 高田太豊、長尾 実、和田美好、佐々木綱行 4 名

○出席者 (事務局：市長公室企画課)
室長 三島哲也、企画課長 河合保隆、交通担当係長 和田隆男、主査 酒井義文

1. 開会 (司会進行：企画課長)

2. あいさつ
・青木副市長

◆議長(代理：副市長) 議事進行

3. 協議事項

議題第 1 号 (株)白鳥交通 白鳥荘川線の廃止及び白鳥ひるがの線の増便について

(説明者：企画課 酒井主査) 資料 1

委員 荘川線が廃線になった場合の代替え路線についてはどのように考えているのか。また廃止路線のバス停で、「ひるがの自然公園前」が抜けているので修正をお願いしたい。また利用についての周知はどのように行ったのか。

事務局 現在郡上市から高山市へ行くには高速高山線があるため、住民の足は確保されており問題は無い。バス停の件は修正する。地元に対しての説明も行っている。

委員 具体的にどのような形で地元を確認を行ったのか。

事務局 高鷲地域の自治会長会に行き説明を行い、問題は無いとの回答であった。

* 質疑応答

議題第 2 号 郡上市地域公共交通網形成計画の取り組み事業 (案) について

* 質疑応答

- 委員 スクールバスとの混乗について、学校の行事等で急に早帰りになったり、大雨などで年に数回変更になることがあるが対応はどうするのか。また、学校の統廃合の話がいくつかあるが、その辺も見据えての計画なのかどうか、教育委員会とのすり合わせは行っているのか教えてほしい。
- 事務局 スクールバスとの混乗において、学校の都合により運行が変更になった場合の対応については、急な変更などにはバス事業者にお申し、臨時便を出してもらい対応する予定である。公共交通はどうしても定時定路線で変更がきかないのでそういった対応となる。また学校の統廃合の話は当然想定しており、現在把握していて、公表できる範囲のものとしては、西和良小学校の和良小学校への統合がある。その他にも今後統廃合の話は出てくると思うので、教育委員会と連携を密にしていきたい。
- 議長 現在、公共施設の総合的な見直しも図っており、そういった中で複式学級を持っている学校の解消というものもある。スクールバスの取り扱いについては教育委員会とかなり協議を行っていき慎重に進めていく。
- 委員 公共交通利用促進の取り組みのところで、「地域の商店と連携し公共交通の利用価値向上」とあるが、八幡町のまめバスがAコープと連携して行っている割引サービスのことか。高鷲地域では驚見線などを利用して市民が買い物も行っているが、まめバスのようなサービスを取り入れるということか。
- 事務局 その通りで、八幡だけでなく、市域全体にそのような取り組みを広げていこうというものである。
- 委員 シニアクラブの方とお話しの中で、公共交通に対して大変不安に思っておられる。高鷲地域では、町民センターでの会合が多いが、現在そこには公共交通が走っていない。今後、是非シニアクラブからも意見を聞いていただき、公共交通の見直しを進めてほしい。
- 委員 八幡地域のまめバスについて、現在1時間に1本運行されているが、住民からの要望で、できれば本数を増やしてほしいという人が多い。それからもう少し停留所を増やしてほしいというもの。全くの交通空白地に地域には申し訳ないですが、地域からはそのような意見が出ている。また、ここで言っているのかわからないが、まめバスの運転手の態度に対して意見を頂いている。あまりにも無愛想なので、叱られて乗っているような気がするというようなものもあった。是非、運転手の接遇については事業者にお話ししていただきたい。
- 事務局 まめバスについては今後の計画の中で検討していきたい。
- 委員 大和地域のやまとふれあいバスは、洞々を運行しており、以前から問題になっていますが、週の便数が非常に少ない。そのため、利用者も少なくなっており、1人1回あたりの運行経費も2～3千円台となっている。これではタクシーと変わらない。ですので、大和地域をデマンドタクシーにするかといった協議を今一度地域で行ってほしい。
- 事務局 大和地域の方は公共交通に大変熱心に協議をしていただき、今後も引き続き公共交通について検討していきたいとのことであった。事務局としても計画策定後も引き続き協議を重ねていく。また利用促進については大きなショッピングモールもあるため、それを活用して、地域ぐるみで利用促進を図っていききたいと考えている。
- 委員 商店との連携については商工会に話を下してもらえれば十分検討の余地があると思う。
- 委員 こういった計画を協議するときに、検討するみんなが、実際に免許証を返納したらどうなるのだ

ろうというところから考えるのがスタートになると思う。まだ具体的にこうしてほしいというような意見は地域からもなかなか提案されない状況である。白鳥町の六ノ里地域では、地域協議会のようなものを作り公共交通についても検討しているが、石徹白では、NPO法人を立ち上げ、地域で運行事業に取り組まなければならないのか、それとも市が行ってくれるのか判断できない。また、我々団塊の世代が免許証を返す時期が一番混乱するときだと思うので、市も先取りして地域に対してアプローチをしてほしい。

また、明宝地域では先日総務大臣表彰をもらったが、明宝地域内で小さな組織が多く作られているらしいが、計画書では具体的なことが書かれていないので、明宝を例に具体的な取り組みについて教えてほしい。

事務局 明宝では現在、交通拠点となっている道の駅の活用について、地域協議会が主体となり検討している。重点道の駅でもあるので、地域の拠点強化という考えで、公共交通を取り込み、地域の憩いの場として見直しを行っていく予定である。また地域団体による福祉有償運送「ふるさと明宝」のような取り組みも行われており、地域づくりとして交通不便地域の課題を考えている。

委員 地域ではどうしたらいいのなかなか分からないので、計画の中で具体的にこうしたらいいというような取り組みが出てくるかと今回期待していたがそういった部分はなかった。明宝地域についても計画の中にそういった表記が無かったので、明宝地域の人は何も計画に期待してないのではと思質問した。

事務局 計画書には記載はないが、道の駅を活用し、日用品が買える機能を追加したり、将来的に自動運転の取り組みも道の駅を拠点に考えている。

委員 今後も明宝地域の取り組みについては期待している。同じ市内でそういうモデル的なアイデアなどがでてくると他の地域でも参考になる。

委員 高鷲ですが、デマンドバスの鮎立線について、高齢者に聞くと乗るために予約の電話をしなければならないが、1人で乗るのは怖いので利用しにくいとのことであった。市が一生懸命取り組んでいることを町民祭りなどでPRをして広げていくことができないかと思う。また、免許証が無くなってからでは遅いので、少しずつ地域に考えてもらう仕組みを作ってはどうか。また、高齢者が集まるサロンなどで、アンケートでもいいから行って、意見を拾ってはどうか。

委員 美並地域ですが、現在美並巡回バスはマイクロバスで約30人乗りである。町内の細い道を入れていくには使い勝手が悪く一番大きな問題である。自宅まで来てくれないかという意見が多い。

それから美並地域では南北に分かれてバスが運行されており、バスが来ない日が多くあるし、美濃市へ行くバスは週に2回運行で、最近利用者が減っている状況である。

私は長良川鉄道が新しく始めたシルバー会員制度に登録している。会員登録する際、関の本社に行き手続きをしたら、私は23番目であった。もっと登録してくれることを期待している。長良川鉄道を起点としてバスやタクシーの運行をしていただくと、市役所にも来るのに便利になるので良いと思う。

ご存知の人もあるかもしれないが、長良川鉄道の美濃太田駅は、名古屋に行くのに非常に便が悪い。名鉄の鵜沼駅まで延伸する話が新聞でも取り上げられており、期待しているところである。これによって、観光バス、タクシーなどは非常に可能性が持てるのではないかと思う。

最後に、長良川鉄道に提案で、75歳から1万円を寄付して一年間乗り放題にしてはどうか。これは飛び越えた案であるが、シルバー会員制度を是非皆さんで進めていただき、郡上の観光立市がますます発展することを望んでいる。

委員 長良川鉄道のシルバー制度に登録する際、写真が要りますが、3か月以内でないといけないとあるので、家にある写真でいいようにしてもらえるとありがたい。

議長 会社の方に伝えておく。

委員 明宝の小川地区ですが、明宝の自主運行バスの土曜日運行見直しとなっているが、地域の子供は土曜日の部活動には自主運行バスを利用しており、生活にも影響してくるため、オンデマンド式みたいな形で運行形態を変えて対応するなど検討してほしい。明宝地域は本当に先の見えない高齢化地域なので、透析などによる病院への通院など地域を支える仕組みとして、NPO活動や、スクールバスなどを組み合わせて総合的に考えれば経費も浮いて継続できると思う。今後絶対に人口は減っていくので是非検討していただきたい。また大きな地域で取り組もうと思うと大変なので、小さな地域、組単位ぐらいで取り組みを始めるといい。また意見を聞くときも広い割振りではなく、小さなところから細かく拾う仕組みをお願いしたい。

委員 和良町は過疎地域で、どんどん人口が減っている。スクールバスにお年寄りが乗ればいいのだが、それができないのなら、自主運行バスを利用するしかない。和良巡回バスの土京線、鹿倉線は年によって利用人数に違いがあるので、定期運行では年によって空気輸送が出たり、無駄があるので、デマンドの方向で検討するのが良い。お年寄りの利用目的の一番は通院なので、お年寄りの行きたい病院に対しての交通の足として考えることが必要。公共交通が無くなると、遠くに住む子供たちが自分のところへ親を連れて行き、益々人口が減ってしまう。明宝のように和良地域もコミュニティがしっかりしていて、助け合いの中で自分たちの移動手段を確保している。そのような形の延長線で、誰かが誰かを乗せていくという形に将来的にはなっていくのではと思う。

委員 私は自分の活動の中で、地域のお年寄りを無償でドアツードアの送迎を行っている。先日、送迎した方が、会話の途中でロレツが回らなくなり、車への乗降の際、不安定になっていたので、おかしいと思い、よく話を聞いたら、昨日転倒して頭を打ったそうで、すぐに病院へ行き救急で診てもらったことがあった。このように、地域の住民が主体となって送迎を行っているという細かいことに気付けるという経験をした。こういう取り組みは公共交通を補完する取り組みであると考えるので、そういう視点も取り入れて計画を考えていただきたい。また現在電気自動車を利用して送迎活動を行っているが、今後はトランクなども有効に活用し、石徹白までの貨客混載運行などの仕組みを検討していきたい。

委員 計画の中に「タクシー事業の利用促進」とありますが、どちらかというと現状はタクシーの仕事を奪っている状態である。郡上八幡インターへの高速バスの送迎も、これまでタクシーが担ってきたが、市が新たにデマンドバスを走らせたため減ってしまった。タクシーも3人とかで乗ればバスより安く済む。多額の費用をかけてそのようなデマンドバスの実証実験をやられるのはどうかと思う。今タクシーの仕事がどんどんなくなっているのは、タクシー事業者潰しと言わざるを得ない。その点についてどのように市は考えているのか。

事務局 決してタクシー潰しなどと思っていない。郡上八幡インターからのデマンドバスの実証実験についても当初はタクシー活用を想定していた。結果的にバス事業者による運行となってしまったが、郡上に来る観光客のニーズはタクシーだけではないという点もある。また、PRの中でそういった路線を運行することにより観光客が増えるという可能性も見込めると考えている。ただ、実証実験の今後について、どのような運行形態にするかは検討していきたい。

委員 実証実験を始めてからの実績はどうなっているのか。

事務局 8月は約200人、それ以降の月は少ない状況になっている。

委員 そんなに多くないはずである。どのようなカウントをしているのかわからないが、実証実験のバスをあまり見たことが無い。バスよりタクシーを予約されてくるお客さんの方が多いから、タクシーが衰退してしまうと、そういうお客さんにとっては迷惑になってしまう。タクシーが無ければホテル郡上八幡にも行けない。プラザへ行きたい人ばかりではない。市は観光に対し多くの予算を使われるが、地元の高齢者の足であるタクシーが危機である時に、逆にタクシーの仕事を奪うことをしているので、慎重に行っていただかないとタクシーが無くなってしまう。

議長 市はタクシー潰しを行っているわけではない。

委員　　こんな小さい町にまめバスを走らせたならタクシーの収入は落ちてしまう。住民が病気になったときは、まめバスよりタクシーの方がいいという意見もある。現在タクシー台数がかかなり減少しているので、高齢者もなかなか免許証を返納できない状態である。最終的にはタクシーがないと地域が不便になるので、慎重に考えていただきたい。美濃市ののり愛くんというサービスは大変住民からも好評で良い取り組みであるので、市もそういった先進地域を勉強していただきたい。補助金のことばかり考えるのではなく、地域の懇談会も実際にタクシーを利用されている方などに参加してもらい行われるべきである。

委員　　タクシー事業者は高速バスのバス停で待機しているのか。

委員　　時間がまちまちなので、山の中で待っていても仕事にはならない。事前に電話予約されたお客さんに対して迎えに行くようにしている。とにかく待っているわけにはいかない。

委員　　美並地域ではタクシーが無い。結局は地域づくりをどうしていくかという話も、地域で担い手を探さないといけない。その担い手が地域協議会かと言われると、評論ばかりで、実際にどうするという事もない。先ほど和良での取り組みがあると聞いたが、地域で運行主体となる団体づくりに取り組まれている事例となるので、市内に紹介すると他の地域でも参考になると思う。また、郡上市社会福祉協議会では年間 100 件以上車椅子を貸出ししているので、ユニバーサルデザインタクシーが増えればそういった方にもありがたいと思うので推進してほしい。

議長　　地域づくりに関しては行政も地区単位を小学校区にするか、地区公民館単位にするかなど様々な検討を行っている。そのような交通ネットワークにしていくことが地域にとって良いのかを今後検討していきたい。公共交通だけでなく、公共施設も含めて考えていかなければならず、これは非常に大きな課題と考えている。本当に人口が減少していく時代の中で、それぞれの地域をどう残していくのかを早急に市としても検討する。

委員　　タクシーも一つの公共交通であり、当然計画の中に入っているが、まだ書けないことも多くある。「活用」という言葉の中に事務局は色々と考えていると思う。

免許証の自主返納について、自分の経験からもなかなかお年寄りのライフスタイルは変えることはできない。便利なマイカーから公共交通へ切り替えるのは相当な努力が要る。そういったことを今後も色々な場で話し合っていたきたい。また、NPOで運行主体をつくるという取り組みについても、全国に多くの事例があるので、事務局で良く調べていただき、運輸局のホームページにも掲載されているのでよく検討してほしい。また公共交通網形成計画はこれで決まったわけではなく、これからも柔軟に見直していくので、毎年皆さんの目で確認して、修正を行っていくものである。

計画の中で、「高齢者等」と「高齢者」だけのところが混在しているので事務局でもう一度確認した欲しい。福祉と公共交通の切れ目は無いので、観光、教育も含めて総合的に取り組みを行ってほしい。

議長　　多くの意見をいただいたので、これらを修正して、次回の公共交通会議でご提示するつもりである。私の進行はここまでにして事務局に戻す。

事務局　　次回は計画の目標値と評価の仕組みについて協議を予定している。次回の会議は1月16日を予定しているのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして第4回郡上市地域公共交通会議を終了させていただきます。

閉会挨拶　　副会長
(閉会)